

H27 学力向上を図るための調査結果のお知らせ

練馬区立開進第一小学校

今年度の学力調査の結果をお知らせします。この結果をもとに、児童によりわかりやすい授業を行うために、授業改善プランを作成しました。授業改善プランはホームページでお知らせいたします。

<6年生 全国学力・学習状況調査 4月21日実施(文部科学省)> (平均正答率%)

国語 A 主として知識

	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
開一小	54.4	86.8	58.1	<u>79.1</u>
東京都	57.4	87.7	59.0	78.6
全国	53.0	86.0	55.2	77.2

国語 B 主として活用

	国語への 関心・意欲・態度	書く能力	読む能力
開一小	<u>54.2</u>	61.4	68.3
東京都	55.7	62.2	68.6
全国	55.4	61.1	68.1

「B 関心・意欲・態度」の結果が十分ではありませんでした。この設問は、書く能力・読む能力の問題に記述式で答えるものでした。「A 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」は、よく理解できています。これは、漢字の読み書き、主語・述語や文型に関する内容です。

算数 A 主として知識

	数と計算	量と測定	図形	数量関係
開一小	80.8	<u>67.3</u>	66.2	85.5
東京都	81.4	73.6	69.2	85.4
全国	80.1	71.3	64.5	84.9

算数 B 主として活用

	数と計算	量と測定	図形	数量関係
開一小	<u>50.7</u>	<u>49.7</u>	<u>55.5</u>	<u>52.9</u>
東京都	45.3	44.6	48.5	45.8
全国	42.4	41.7	45.6	43.0

「算数 B 主として活用」では、大変良好な学習状況です。児童は、学んだ知識・技能をもとに、よく考え活用して学習しています。「A 量と測定」は時間と時刻、図形の角度や分度器に関する問題で、「A 図形」は、円と三角形、直方体に関する問題で、さらに習熟が必要です。

理科

	科学的な思考・表現	観察・実験の技能	知識・理解
開一小	<u>64.2</u>	<u>57.9</u>	<u>73.9</u>
東京都	62.4	57.1	69.0
全国	60.5	55.5	68.6

今年度初めて、理科の調査が行われました。総じて良好な学習状況です。特に「知識・理解」の

内容は、児童がよく習得しているといえます。

< 5年生 児童・生徒の学力向上を図るための調査 7月2日実施（東京都教育委員会） >

A 教科の内容 （正答率%）

	関心・意欲・態度		思考・表現・判断 (国語:話す・聞く)		技能 (国語:書く)		知識・理解 (国語:言語)		読む	
	開一小	東京都	開一小	東京都	開一小	東京都	開一小	東京都	開一小	東京都
国語	<u>81.4</u>	87.8	<u>70.6</u>	74.6	62.1	61.2	61.5	61.3	64.6	63.6
社会	89.7	88.3	59.1	60.8	69.8	68.1	47.4	44.7		
算数	79.4	78.4	58.8	59.2	65.9	68.2	<u>64.3</u>	69.5		
理科	92.2	91.3	58.8	59.4	69.3	71.4	72.2	73.7		

概ね都の平均と同程度の学習状況ですが、国語の2つの観点、算数の1つの観点（下線付）で、習熟が十分ではありませんでした。今後、習熟に力を入れていきます。

B 読み解く力に関する内容

	取り出す力		読み取る力		解決する力	
	開一小	東京都	開一小	東京都	開一小	東京都
国語	<u>48.0</u>	56.0	<u>14.7</u>	7.3	38.2	37.7
社会	<u>63.7</u>	57.0	<u>52.5</u>	48.7	30.4	32.8
算数	73.5	74.6	25.0	25.8	36.3	38.8
理科	60.8	60.5	<u>62.3</u>	55.5	57.4	56.2

「取り出す力」とは、必要な情報を正確に取り出す力 「読み取る力」とは、比較関連付けて読み取る力
「解決する力」とは、意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力

特に理科では、学力が身につけていると言えます。4つの観点（二重下線付）で、大変良好な学習状況です。

C 学年の合計正答数の人数分布

縦軸は人数、横軸は正答数を表しています。国語では正答数が多い児童が多くなっています。

国語・社会・理科では、正答人数の分布の山がほぼ一つですが、算数では正答数が16問と24問で2つの山ができています（★印）。これは算数の得意な児童と苦手な児童の差が開いていること、学力が2極化していることを示しています。算数は特に下学年の内容がわからないと上学年の内容が理解しにくい、積み重ねが最も必要な教科であることが原因していると思われます。

この問題を解消するためには、算数の授業では学級を解体し、児童の習熟度に合わせて学習集団を編成し、児童それぞれに合わせた内容や進度で授業を行う必要があります。そこで、本年度より3～5年生で習熟度別学習を取り入れ、児童一人一人に合わせた学習ができるようにしました。

